



災厄を祓う―  
宇出津あばれ祭

美しい神輿の面影も無くなり白山方の神輿が入り宮した頃、降り続いた雨が途端に止み、本格的な夏の到来を告げました。

二日目は神輿が八坂神社を目指し町内を暴れ回ります。御旅所、万崎をそれぞれ出発した神輿は川や火の中に。若衆が息災を願いながら道路や川の護岸に神輿を打ち付けると重く大きな音が響き、水面や地面が波打ちます。男らは松明に投げ入れられ火が移った神輿にも動じることなく、より猛々しく暴れます。



県の無形民俗文化財に登録されている宇出津の「あばれ祭」が7月6日、7日に開催されました。

早朝の8時、八坂神社で2基の神輿がお祓いを受け、雨音の中、祭りが始まりました。

夜、花火を合図に、柵木海岸から約40基のキリコがいやさか広場を目指し練り歩きます。広場に着くと燃えさかる大松明の周りをキリコが乱舞。火の粉を浴びながらキリコを進める担ぎ手の勇壮な姿に初日最大の盛り上がりを見せます。



# あじさい花灯り回廊

あじさい寺の名で知られる寺分地内の平等寺で6月30日、「あじさい花灯り回廊」が開催され約千人の来場者で賑わいました。

参道の左右にはペットボトルを活用したLED照明「ペットボトル」が並びお出迎え。本堂までの行き先案内をします。境内には130種4千株のあじさいが植えられており、雨に濡れたあじさいがろうそくの灯りに照らされ幻想的な空間が醸し出されます。

地域住民や檀家をはじめ、多くのボランティアの力により作り上げられる灯りイベント。今年は金沢星稜大学の学生10人も「灯り人」に加わり、参拝客をもてなしました。



美しく咲いた色とりどりのあじさい



写真に収める姿が多く見られた

点灯式では、干場実行委員長、上野住職らが灯籠に灯した



芸能ショーは落語と民謡。軽妙な語り口に笑いが起こる



# 恋路火祭り

7月15日、恋路火祭りが盛大に行われました。

担ぎ手により坂の上広場から急坂を下ったキリコは、浜に着くと海に入り乱舞。海深くまでキリコを進めます。威勢の良い掛け声が響く中、打ち上げ花火が夜空とキリコを彩り、油物と呼ばれる仕掛け火に火が灯され「恋路」の文字が浮かびあがりました。

小松明から大松明に火が移されると祭りは佳境を迎えます。悲恋伝説の地で燃えさかるかがり火は海面や島影を鮮明に映し、見る者の心を静かに照らしました。



大輪の花火が2基のキリコを照らす

強い日差しの中練習する子どもギリコ



海に入り重くなったキリコ

激しく燃える大松明



# 地域に勇気をスポーツの力

## 小学生全国大会出場選手激励会

7月13日役場能都庁舎で、ソフトテニス、相撲、ドッジボール競技で全国大会に出場する選手の激励会が行われました。相撲の橋本晴輝さんが「良い成績を目指して頑張ります」と意気込みを述べ、持木町長が「自分はできるという強い気持ちを持って臨んで来て欲しい」と激励しました。



### 第35回全日本小学生ソフトテニス選手権大会

〈能登町ソフトテニススポーツ少年団〉

竹原正真、境谷健太郎

〈能登ソフトテニススポーツ少年団〉

竹口陽菜、宮下日香莉

### 第34回わんぱく相撲全国大会

〈のと青年会議所〉

岡島碧人、半田翔誠、橋本晴輝

### 第28回全日本ドッジボール選手権全国大会

〈小木ドッジボールクラブ〉

福田啓太、谷口夏野、大平昂知、上見衣織、

藪下晶基、出島克竜、寺川幸広、新保祐希、

菅原彩世、大谷内煌冨、谷口郁矢、谷口拓矢、

出島秀真、松井武留、松井颯士



## 能登高校インターハイ出場報告会

アーチェリー部、陸上部、ソフトテニス部の選手13人が7月4日、役場能都庁舎を訪れ持木町長にインターハイへの出場を報告しました。アーチェリー部の青山祐也さんが「県代表の自覚を持ち入賞目指して頑張りたい」と決意を述べ、持木町長が全国の舞台での活躍に期待を寄せました。



## 第25回北信越小学生ソフトテニス選手権大会

(6月17日・新潟県上越総合運動公園テニスコート)

女子の部

優勝 竹口陽菜・宮下日香莉ペア

第3位 廣田佳奈・宮下垂華莉ペア



写真左から3人目が竹口さん、4人目が宮下日さん  
写真右から宮下垂さん、廣田さん

大会結果は、各競技団体・学校などからの情報提供に基づき掲載しています。

## 第34回桐野尾杯争奪少年バドミントン大会

(6月23日・七尾総合市民体育館)

以下の10人は、8月25日に開催される「北国新聞社杯争奪少年選抜大会」に出場します。

小学4年生以下女子の部 ベスト8 町端美月

小学4年生以下男子の部 ベスト8 新出太一

小学5年生女子の部 準優勝 新出理央

ベスト8 富田優来・伊勢舞子・府中綾望

小学5年生男子の部

ベスト8 大島莉空・三田晴也

小学6年生女子の部

ベスト4 寺下乃愛、ベスト8 時長莉央

## 8/11は 能登町・穴水町ホームタウンサクスデー

8月11日④のツェーゲン金沢対ヴァンフォーレ甲府戦は「能登町・穴水町ホームタウンサクスデー」です。能登町に在住の方はJリーグの試合を無料で観戦するチャンス! たくさんのご来場をお待ちしています。

●対象試合 ヴァンフォーレ甲府戦 (19:00 キックオフ)

○場所 石川県西部緑地公園陸上競技場 (金沢市袋島町南 136 番)

●招待者数 親子先着 1000組 2000名

※一人での申込みも可

○申込締め切り 8月9日④

●申込方法 QRコードまたはURLより専用フォームにアクセスしお申し込みください。当選者の方には電子招待チケットをメールにて配信します。

URL [http://f.msgs.jp/webapp/form/20165\\_pvdb\\_35/index.do](http://f.msgs.jp/webapp/form/20165_pvdb_35/index.do)



QRコード



# 能登から世界へ 「なごあ、はじめよう」里海研

里海科の発表会とシンポジウムが開催されました！

7月13日、小木小学校にて、里海科研究発表会・能登の海洋教育シンポジウムが開催されました。小木小の子どもたちが能登の里海で日々どのように学んでいるのか、そのすばらしい学びの数々を、能登町各校の先生方や、教育委員会、海洋研究・教育に関わられている社会教育施設の方々、そして父兄など地域の方々が参観されました。パネルディスカッションでは、「なぜ海洋教育なのか」というテーマで熱い論議が交わされました。

## 教室で海を学ぶ

研究発表会で一番人気があるのは、なんと言っても公開授業です。海というテーマで子どもたちが実際に教室でどのような授業を行っているのか、他校の先生も熱心に見学していかれます。



いろいろな種類の海藻を観察

公開授業はすべての学年で、海に親しむ・海を知る・海を守る・海を利用するという領域にそった内容で行われます。1年生の「うみのなつをさがそう」では、子どもたちはゲストティーチャーの東出幸真さん（のと海洋ふれあいセンター）が用意した海藻を手にとって観察し、名前や特徴を調べて記録し、夏の海の花藻を学びました。2年生の「生きものといっしょに」で

は、6月に海岸で行った観察記録をもとに、どの生きものがどんな場所をすみかになっているか、みんなで情報を整理して地図づくりをしました。

## 千葉県の小生と交流授業



西岬小学校とつながった3年生の教室

3年生の「わたしたちの海を知ろう」では、館山市立西岬小学校3年生のみなさんとテレビ電話（Skype）で通信し、小木小の3年生が船に乗って調べた小木の町の特徴や、能登の海にいる生きものについてまとめたものを発表しました。千葉県房総半島の先端に位置する西岬小の子どもたちも、自分たちで調べた地元の海に生息する生きものについて発表を行いました。4年生の「能登町の海を調べよう」では、なぜ小木は「イカの町」と呼ばれるのか、漁協の方にインタビューして調べたイ



ウニの受精をリアルタイムで観察

力漁の仕組みについて発表していただきました。今後、この発表をもとに新聞やCMを作成するそうです。

5年生の「魚のたんじょう」では、ゲストティーチャーとして浦田研究員が協力しました。子どもたちは生きたまラサキウニの卵と精子、受精の瞬間を顕微鏡で観察し、動物の誕生のしくみについて学んでいました。6年生の「生き物のくらしと環境」では、理科で学んだ食物連鎖について、海の生き物たちはどのような連鎖、循環をつくっているか考えてみる授業でした。

どの授業も、海のことを知るだけでなく、国語や社会、理科といった教科の勉強につながる工夫がされています。そしてゲストティーチャーの活用により、子どもたちは興味を持ちながら自分で探究を重ねていました。

## 地域が育む海洋教育

公開授業に続くポスターセッションでは、のと海洋ふれあいセンターやうみとさかなの科学館など、これまで里海授業でお世話になっている施設の取り組みについて発表いただき、各施設のポテンシャルを活かした新たな海洋教育の取り組みへのイメージをみなさんと共有できました。

続くパネルディスカッションでは、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの日置光久教授がコーディネーターとして登壇し、「今、なぜ海洋教育なのか」というテーマのも



シンポジウムの様子。熱心に耳を傾ける参加者ら

と、4名のパネリスト・会場の参加者とともに議論を進めました。パネリストの蟹豊文氏（徳洋水産）は日本海の沖合イカ釣漁の現状と課題について動画を交えて紹介し、中田洋助氏（日の出大敷）は若手漁業者として定置網漁にかける思いと、水産業全体への課題意識を述べ、加賀浩先生（小木小）と浦田慎（本研究所）は次世代の子供たちへの海洋教育を学校でどのように取り組み、また社会がそれをどう支援可能かについて述べました。

会場からは、「海洋教育を効果的に進める上で能登里海教育研究所とどのように連携したら良いか」といったさまざまな質問やコメントが出て、海洋教育への理解の深まりと意識の高まりを感じました。日置教授からは、全国的な海洋教育推進と東京大学の取り組みが紹介され、学校と地域や大学が連携した海洋教育の必要性という点で、パネリスト・フロアの参加者との論議をまとめていただきました。

最後は小木小学校の小杉直基校長の挨拶があり、会場からの大きな拍手に、今後の海洋教育への期待が感じられました。参加・協力いただいた皆様ありがとうございました。

（能登里海教育研究所 木下靖子）

## 海洋教育振興・水産資源研究の拠点に



完成イメージ図

能登海洋教育研究施設（仮称）建設工事安全祈願祭・起工式が7月2日、越坂地内で行われ、工事関係者や金沢大学関係者、地区の代表など約100人が参列しました。

施設は、金沢大学が今年度理工学域に「生命理工学類海洋生物資源コース」を新設したことに伴い、今後、町と大学が海洋教育の研究と振興や、水産資源などの地域資源の活用で連携を図っていくことから、大学生、教員が長期滞在して最先端の研究ができる

ような環境を整えることを目的として建設されます。

持木町長は「能登海洋教育研究施設が地域のシンボルとなることを期待しています」と式辞を述べました。

研究施設は3階建てで、水棲生物の飼育室や研究室、実験室、講義室などを設けています。また、敷地には大型バス1台を含め約40台の駐車スペースも整備され、今年度完成予定です。

地域への貢献や連携強化に期待を述べた金沢大学の山崎学長



工事の安全を祈る参列者

## 視野を広げる・深く考える・表現する機会を作っています

### 始めています「まちなかゼミ」

まちなか鳳雛塾では、教科の学習だけでなく、生徒一人ひとりの視野を広げたり、考えを深めたり、自分の意見を表現するような機会を増やしていこうと考えています。その取り組みの1つとして、6月から「まちなかゼミ」を始めています。



#### 第1回 論理的に考える力を磨く

初回は論理的に考える力や考えを適切に他者に伝えて議論する体験を、昔話「三匹のこぶた」をベースに楽しく裁判員体験ができる動画教材を使って行いました。動画教材の法廷に出てくるさまざまな証拠や証言などの情報から「事実」「根拠」「推測情報」を取り出して論理的に自分なりの判決を導き出す作業は、参加した能登高校生や中学生には少し難しく感じたようですが、しっかりとメモをとりながら、自分なりの考えをまとめたのが印象的でした。

#### 第2回 未来を知り、今を考える

2回目は「未来を知る」というテーマで実施しました。これまでの100年間に日本が経験した大きな変化と、これから先の100年間に予測されている日本と世界の人口増減や、AI（人工知能）の発達によって起こりうる労働環境の変化、今の高校生の多くが「22世紀」まで生きると予測されている「人生100年時代」の到来について解説しました。それらの話を踏まえて、高校生が今取り組むべきことを生徒に考えてもらいました。



**参加した生徒は…**

「難しかったけど、楽しかった!」「学校の授業とは違って答えがない話だった。どうしたらよいのか、自分で考えないといけないと思った。」「こうした時間をもっと作ってほしい」といった声が聞かれました。

## 「学問カルタ」で進路について考えました

世の中の仕事と学問領域（大学での学部や学科）とのつながりを遊びながら楽しく学ぶ「学問カルタ」を、能登高校生や中学生と行いました。

「学問カルタ」とは、大学で学べるほぼすべての学問領域（学部）が記載されているカードと、その学問を学んだ先につながる仕事とをマッチングさせるというゲームです。

今回は「学問カルタ」の考案者であり、能登高校魅力化プロジェクトのアドバイザーである北陸大学教授の藤岡慎二さんをまちなか鳳雛塾にお招

きし、まず学問を通してこれまで人類が蓄積してきた知見が社会でどのように役立っているのか、について話をさせていただきました。そしていよいよカルタに挑戦。20分間で学問領域と仕事をマッチングできるか競いました。身近な仕事とあまり馴染みのない学問領域とを「これとこれかな!?!」と組み合わせる熱中する生徒たち。その後、学問領域についての解説を再び藤岡教授から話していただきました。



**参加した生徒は…**

「大学ではいろんなことを学べるのだなと思った」「自分の好きな学問を見つけて将来の進路が決まった」「学問について、新しく興味を持てたところもあったので、進路選択に役立てるように思えた」といったそれぞれの新たな気づきの声が上がっていました。

まちなか鳳雛塾では、教科学習の支援だけでなく、生徒一人ひとりの視野を広げたり、考えを深めたり、自分の意見を表現するような機会を、地域のみなさまのお力添えをいただきながら設けることで、未来を生き抜く力を育んでいこうと考えています。

(プロジェクトコーディネーター 木村 聡)

## 8月のまちなか鳳雛塾スケジュール

8月中は13:00から開塾。  
8月13日～18日は閉塾します。

受講対象者	月	火	水	木	金	土
全学年	13:00～22:00 自律学習解放					
高校生	19:30～22:00 学習面談日				20:00～21:00 特別講義	13:00～22:00 自律学習解放
中学生・発展				19:30～21:00 一斉演習日※①		
中学生・基本			19:30～21:00 一斉演習日※①			
小学4～6年生		16:00～18:00 一斉演習日※②				

※①…中学生の一斉演習日は、学習効果向上を目的に習熟度別に発展・基本の2クラスに分けて全学年合同で実施。クラス分けは入塾時のテスト結果で判断。※②…小学生は②・③のどちらかを選択。

■開塾時間：月曜～金曜 13:00～22:00、土曜 13:00～22:00（日曜・祝日は閉館）  
■8月の29日～31日は授業を原則休講。自律学習開放は行っています。8月13日～18日は閉塾します。  
■小中学生は各クラスごとに定員あり。定員になり次第募集を停止します。

塾生の保護者や入塾を考えている方は、授業見学随時可能です。お気軽にご相談ください。



まちなか鳳雛塾には駐車場がありません

☎まちなか鳳雛塾 ☎ 0768-84-5282  
(ひかり電話のため局番が「84」です。)  
受付時間 ⑨～⑤の16:00～22:00

## 共に町の未来を創る能登高校

### あなたの手で支えてください

能登高校を応援する会は

- ・生徒の学習環境の整備
  - ・クラブ活動の支援
  - ・学校の存続発展に関する支援
  - ・生徒募集の推進に関する支援
- など、地域の高校を支援する団体です。

○申し込み・問い合わせ

能登町役場・支所の窓口および地域戦略推進室、または能登高等学校事務室まで直接お申し込みください。

☎ふるさと振興課地域戦略推進室 ☎ 62-8512

能登高等学校 ☎ 62-0544

○年会費

個人会員 2,000円～

団体・企業会員 5,000円～

